



# 瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

待降節第 2 主日 C 年 (2024 年 12 月 8 日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：バルク書 5 章 1—9 節

第二朗読：フィリピの信徒への手紙 1 章 4—6、8—11 節

福音朗読：ルカによる福音書 3 章 1—6 節

三つの朗読から

第一朗読にある背景はバビロン捕囚からの帰還の出来事です。いくつかの言葉が神の姿を表しています。「永遠なる者」(2 節)、「命じられた」(7 節)、「導かれる」(9 節)。

永遠なる方は、人々がエルサレムへと戻ってくるために谷を埋め、山を低くするように命じます。こうして人々をエルサレムへと導くのです。そのとき、悲しみと不幸は失われ、喜びに満ちるのです。

第二朗読はパウロの祈りに満ちています。それはパウロの、フィリピの教会の人々への愛の想いを表しています。「たたえることができるように」(11 節) との祈りは、現代のわたしたちに向けられた祈りです。

徒歩で去った捕囚の民を、神は道を整えて連れ戻していただきました(第一朗読参照)。同じように、キリストの日(第二朗読参照)に備えて、ヨハネによって道がまっすぐにされます。こうしてすべての人が「神の救いを仰ぎ見る」のです(福音朗読参照)。

『ルカによる福音書』は、「尊敬するテオフィロさま、わたしもまた、すべてのことを初めから詳しく調べましたので、あなたのために、それを順序立てて書き送りたいと思います」(1 章 3 節 フランシスコ会訳) という献呈の言葉から始まります。そして、洗礼者ヨハネとイエスの誕生が詳しく述べられ(1 章 5 節—2 章 52 節)、イエスさまの宣教の準備として、洗礼者ヨハネの宣教の様子が伝えられます(3 章 1—38 節)。

今日の福音朗読はヨハネの召命の箇所です。最初にイントロダクションのように歴史的背景が綴られています(1—2 節)。そして、ヨハネの登場と預言者イザヤの言葉が引用されています(3—6 節)。

『ルカによる福音書』の作者は、洗礼者ヨハネの宣教活動を歴史的背景から書き始めることで、出来事全体を当時の世界史的な文脈の中に当てはめようとしているようです。それは、「わたしたちの間

で成し遂げられた出来事」(1章1、2節 フランシスコ会訳)が本当にここから始まることを示しているのかもしれませんが。

2節の「神の言葉が荒れ野でザカリアの子ヨハネに降った」に注目してください。「神の言葉が〇〇に臨んだ」は、預言者が召命を受ける際に用いられる典型的な表現です(例:エレ1章2、4、11節、エゼ1章3節、ホセ1章1節、ヨエ1章1節、ヨナ1章1節、ミカ1章1節他参照)。ヨハネは「いと高き方の預言者」(1章76節)と見なされていますから、これに対応する表現と言えるでしょう。

荒れ野はギリシア語でエレーモスですが、シナイ山で神さまがご自分を啓示なさって以来、神の啓示の場となります。「荒れ野に住んでいた」(1章80節)ヨハネは、神さまとの出会いと交わりを経験したのです。

3節の「ヨルダン川沿いの地方一帯」も興味深い表現です。と言いますのも、他の共観福音書には、ユダヤやエルサレムから人々が荒れ野にいたヨハネのもとにやって来たと記されているからです(マコ1章5節、マタ3章5節)。『ルカによる福音書』が描写するヨハネの活動は、荒れ野からヨルダン川流域でおこなったとありますから、巡回説教者のようです。ヨハネの召命の場所を荒れ野と設定し、宣教活動の場所をヨルダン川流域として区別しています。そしてイエスさまの宣教活動にはヨルダン川流域が記されていませんし、ヨハネに関わる箇所ではエルサレムやガリラヤは削除されています。イエスさまの宣教とヨハネの宣教の対比を際立たせようとの意図があったのかもしれませんが。

しかも、他の共観福音書がヨハネを洗礼者と紹介しているのに対して(マコ1章4節、マタ3章1節)、ここでは洗礼者とは記していません(7章33節は例外か?)。奇抜な服装にも(マコ1章15節)、人々の罪の告白と洗礼についても記していません(マコ1章5-6節、マタ3章4-6節)。

そして4-6節には『イザヤ書』40章3-5節からの引用があります。これは捕囚の地からの帰還を預言する箇所です。『イザヤ書』の記述を見てみると、

「呼びかける者の声がする。

『荒れ地に主の道を備えよ。

荒れ地にわたしたちの神のための街道をまっすぐにせよ。

すべての谷は高くされ、すべての山と丘は低くされ、

起伏は平坦に、険しい所は平野とされるように。

主の栄光が現れ、すべての肉なる者はともにこれを見る。』

まことに、主の口が語られた。」(イザ40章3-5節 フランシスコ会訳)。

とあります。福音書は、ほぼ『イザヤ書』からの引用ですが、「人は皆、神の救いを仰ぎ見る」(3章6節 新共同訳、フランシスコ会訳は「すべての人が神の救いを見る」)だけは福音書の作者による付け加えとなります。すべての人が神の救いを見ることは、シメオンの賛歌の後半部分と関連づけられているのかもしれませんが(2章31-32節)。